

平成23年度教職大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	23K03	氏名	高橋 豪
研究主題 —副主題—	子供の発話を促す英語絵本を使った教師のはたらきかけ		
所属校	新宿区立落合第四小学校	派遣先	玉川大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>平成23年度から外国語活動が本格実施された。英語ノートが導入されて、「毎週1時間、1年もの間、何を教えたらいいいのか」という先生たちの戸惑いは少し軽減された。しかし英語ノートをそのまま使う活動では何か物足りなく感じる。なぜなら英語ノートの活動はすぐに発話につなげようとするからだ。</p> <p>小学校学習指導要領の外国語活動の目標には、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」と書かれている。現在外国語活動で一般的に扱われているのは英語ノートである。英語ノートで登場したセンテンスを使った活動だけでは、ある程度の英語の習得はできても、「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」ことができるとは言いきれない。積極的にコミュニケーションを図ろうとするのは、自分の考えや思いが自発的に生まれる時である。だからこそ、習得できていない英語で行うことは難しいのである。</p> <p>最近、あちこちで外国語活動における絵本の活用が見られるようになった。しかし、読み聞かせの仕方は、バラバラである。今回の研究で、読み聞かせの仕方によって、子供の発話数が全く違ってくることが分かった。子供の発話を促すために、教師はどのように働きかければよいのかを研究した。</p>
II 研究の方法	<p>外国語の絵本の読み聞かせをする際、教師がどのように働きかければ子供が自分の考えや思いを伝えられるのか、2年生の6つのグループに絵本の読み聞かせを行い、検証した。被験者は、新宿区立落合第四小学校2年生で、8～9名の6グループにわけた。使用した絵本は、オックスフォード・リーディング・ツリーシリーズのA NEW DOGである。担任が子供たちとコミュニケーションを取りながら、絵本の読み聞かせを行った。録画したビデオから、教師(Teacher)と子供(Kids)の発話を書き起こし、下記のカテゴリーにわけて分析を行った。</p> <p>教師 英語で話しかけている・日本語で話しかけている・英語で質問している 日本語で質問している・英語で反復している・日本語で反復している 褒める・驚く</p> <p>子供 英語で反復している・日本語で反復している・英語で質問に答えようとしている・日本語で質問に答えようとしている・知っている英語を話そうとしている・自分の経験を話そうとする・絵から内容を推測しようとする・思ったことを話す・質問しようとする・理由を挙げて説明しようとする・体で表現する</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>A と B の二つのグループに英語絵本で読み聞かせをした。圧倒的に B グループの発話数が多かった。A グループは、できるだけ日本語を使わないようにし、英語中心の読み聞かせであった。B グループは、英語に関係なく、日本語中心の読み聞かせである。</p> <p>A グループのように、教師が英語で質問したことに対しては、子供が英語で答えようとするために、絵本の絵に注目するのではなく、英語そのものに注意がいく。そのため、絵から気が付いたことなどを自由に発言する雰囲気も生まれにくい。そして、英語の質問が難しいと教師が判断した場合、日本語で言い直している。これでは、教師の発言時間が長くなり、会話のリズムが悪くなってしまう。一方、B グループの会話では、とにかく、絵から気付くことをいっぱい言わせた。教師側からの投げかけも短くはっきりとしていた。そして、子供の言ったことを反復したり、褒めたり、驚いたりすることで、発話を促していた。発話数も増えた。B グループの子供の発話を分類すると、「絵から想像する。」「思ったことを発言する。」というのが多い。話したいと思って話したことである。自由に話すことができる雰囲気は、実に楽しいものであった。いろいろな想像を働かせ、子供たちは終始笑顔であった。教師の英語が降ってくる A グループの子の顔がこわばっていたのに対して、B グループは、笑いながら読み聞かせを楽しむといった感じであった。</p> <p>英語を味わわせるという点については、子供が話した日本語を英語に直して反復した。子供が夢中になって話している時は、雰囲気も盛り上がっている。身を乗り出している。その時に、子供がつぶやいたことで英語に直せることは、教師が直して反復してあげたことが効果的であった。</p>
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>結論から言えば、英語絵本によって、英語が上達することはあり得ない。しかし、絵本を使って、コミュニケーション活動を充実させる方法はある。そこに英語も交えて話しかけていくことで、絵から英語の意味を推測することができ、英語を使って話すことへの下地が作られる。</p> <p>英語は日本語と比べて、リズムやテンポが重視される言語である。テンポあるコミュニケーションによって、教師と子供の間楽しい雰囲気を築き、そこに英語のエッセンスを取り入れることで、思いを伝えるコミュニケーションに英語を活用していくきっかけになっていくと考えられる。</p> <p>これまで、英語ノートの内容だけでは、子供の活動意欲が起こらないと感じ、学級の実態にあわせて活動をアレンジしてきた。小学校の学級担任がここまで研究するのは大変なことである。そこで絵本は有効である。子供と共に楽しみ、内容を考えながら読み進めていけばいいと考える。</p>